

◎黄色いつばをもつテングタケ科のきのこ

テングタケ科テングタケ属マツカサモドキ亜属 → 傘に溝状なく(条線なし)，ひだの小ひだは非切断形で，胞子はアミロイド

タマゴテングタケ節 → つばは膜質で鞘状～袋状または塊茎状。柄に癒着し上部離脱。肉の変色性なく，つばは膜質で，胞子は球形～楕円形。

	コタマゴテングタケ	クロコタマゴテングタケ	コタマゴテングタケモドキ	コタマゴテングタケ類似種
発生	夏～秋 広葉樹林下	夏～秋 アカマツ・コナラ林，コナラ林下	夏～秋 コナラ林下	
傘	表面は湿時弱粘性で <u>レモン色</u> ，オリーブ色，暗緑黄色など周辺淡い <u>白色～橙黄色の外被膜破片</u> が粒状～膜状で散在	表面は湿時弱粘性で淡黄色地に灰色～ <u>暗褐色の繊維状鱗片を放射状に密布(繊維状)</u> し中央すす褐色で周辺淡い <u>灰褐色の外被膜破片</u> を散布	表面湿時弱粘性で淡黄色～帯褐淡黄色→褐色→暗褐色と <u>変色</u> し周辺淡い 縁部に <u>短くわずかな条線</u> が認められる 全面に <u>灰色～灰褐色粒状いぼ</u> を散布	「コタマゴテングタケとクロコタマゴテングタケの中間的な特徴を持っているようだ」（長澤栄史先生コメント） <u>灰色～灰褐色粒状いぼ</u> を散布
柄	逆棍棒形で基部は膨大して球根状になり，白色～淡黄色肉質つばを癒着し髄状 表面は白地に <u>レモン色細鱗片でだんだら状</u> つばは大部分が柄の基部に癒着するため <u>浅くて襟状</u> となり汚白色	逆棍棒形で膨大した基部に癒着し厚膜で帯赤褐色の <u>浅いつば</u> ，中実～一部中空  表面は <u>帯黄白色</u>	逆棍棒形で基部 <u>球根状</u> となり <u>末端ややとがり</u> 中空  表面は傘と同色で変色も同様。 膨大基部に <u>灰褐色の粉粒状つば</u> あり	逆棍棒形で膨大した基部に <u>類白色厚膜の浅いつば</u>  「つばにあたる柄基部に <u>紫色を帯びた染みを生じるのが特徴</u> 」（長澤栄史先生コメント）
つば	頂部にレモン <u>黄色膜質</u> つば垂下	頂部に <u>黄色膜質</u> つば垂下	上位に <u>淡黄色で縁部褐色の膜質</u> つば垂下	<u>淡黄色の膜質つば</u>
ひだ	離生，密で白色～乳白色	離生，密で白色～帯黄白色	密で白色	密で白色
肉	白色で薄くかすかな渋み，無臭	白色で薄く無味，異臭あり	薄く初めは白色，傷や老成で <u>赤褐色を帯び</u> 無味無臭	白色
菌糸	クランプあり	クランプあり	クランプなし	
	 撮影場所：佐賀市北山ダム(20111024)	 観察場所：長崎県民の森（平成20年・河野先生を迎えての1泊研修会にて）		 撮影場所：唐津市虹ノ松原(20111106)

引用図書：「北陸のきのこ図鑑」「山溪カラー名鑑・日本のきのこ」「山溪カラー名鑑・日本のきのこ(増補改訂新版)」「日本きのこ検索図版」「原色日本新菌類図鑑Ⅰ」